

54
ぶろ
otari-54project

“ごしぶろ” を考える



 おたりむら
小谷村 緑と雪と温泉のふるさと 信州おたり

小谷村特産推進室特産推進係

基本的なこと

将来、どんな村を目指しますか？

目指す村の姿

だれもが

- ・高齢者が・若者が
- ・障がいのある人が
- ・移住者が
- ・すべての村民・生活者が

最後まで

- ・医療的ケアが必要でも
- ・障がいがあっても
- ・独居でも・高齢でも
- ・経済的に困窮しても

自分らしく

- ・自分のペースで
- ・自分の好きなことを実践して
- ・仕事と家庭を両立して
- ・自立して

住み慣れた場所で

- ・生まれ育った集落で
- ・顔見知りの多い地域で
- ・大好きな自然の中で
- ・のんびり落ち着いた環境で

暮らし続けられる村

- ・困った時にお互いに助け合う
- ・安全・安心を実感できる
- ・自己実現(趣味・仕事・いきがい)を追求できる

“目指す姿”から見えてくるポイント

ポイント①

「福祉・介護・医療・子育て」への対応が出発点です



- ・「福祉・医療・介護・子育て」に係る安心感は、最後まで安心して暮らせる村づくりのベースです。
- ・あらゆる工夫・アイデアを駆使して、いま一番困っている村民を支援すること（喫緊の課題）からスタートします。

ポイント②

すべての村民・あらゆる課題が支援の対象です



- ・すべての村民(村外に住む家族等を含む)が支援の対象です。
- ・村または村民が抱える、あらゆる課題が支援の対象分野です。

ポイント③

多様な人材・アイデアが取組のエンジンです



- ・専門の垣根を越えて、様々な人がそれぞれの立場・分野で参画し、一緒になって課題解決に向けて知恵を絞ります。
- ・課題の解決に向けて、従来にない発想・アイデアで対処します。

基本的なこと②

取組を進めるために必要なことは何でしょうか？
(ポイントの整理)

ポイント①

「福祉・介護・医療・子育て」への
対応が出発点です



<問い>

- ・村内生活でいま一番困っている人は？
- ・緊急性の高い支援は何？
- ・要支援者はいまのサービスに満足している？
- ・いまの支援体制は、要支援者にとって便利？
- ・要支援者が増えたとき、いまのサービス水準は維持できる？



<課題へのアプローチ方法を見直しましょう>

- ・個々に課題対処するのではなく、関係者が連携して支援する体制、専門の垣根を越えて協力し合う体制をつくりましょう。
- ・そのためには、みんなを取りまとめる“旗振り役”が必要です。

みんなをまとめる仕組み（旗振り役）



ポイント②

すべての村民・あらゆる課題が
支援の対象です



<問い>

- ・高齢者を支えるのはだれ？
- ・村外で生活する家族（身内の方）は村に何を求めている？
- ・子育てしやすい村？
- ・村で働きたいと考える若者はいない？



<若者が活躍できる仕組みをつくりましょう>

- ・若者に新しい働き方を提案しましょう。
- ・若者の子育てを支援しましょう。
- ・村外で暮らす家族（身内）も支援しましょう。
- ・支えてきた若者が、年を取ったら支えられる仕組みをつくりましょう。

若者を支える仕組み



ポイント③

多様な人材・アイデアが
取組のエンジンです



<問い>

- ・村民を支援するのは村民だけ？
- ・専門外のひとの協力は不要？
- ・異分野のひとの知恵やアイデアを課題解決に使えない？
- ・もっと便利な支援方法はない？



<さまざまな人の協力を得ましょう>

- ・専門の垣根を越えて、様々な人がそれぞれの立場・分野で参画できる仕組みをつくりましょう。
- ・従来にない発想・アイデアを取り入れましょう。
- ・新しい技術を積極的に活用しましょう。

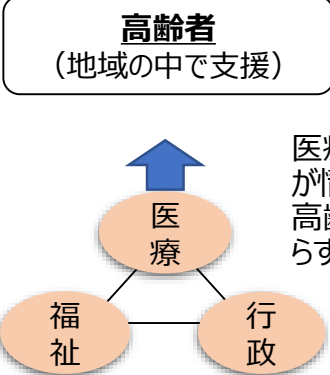
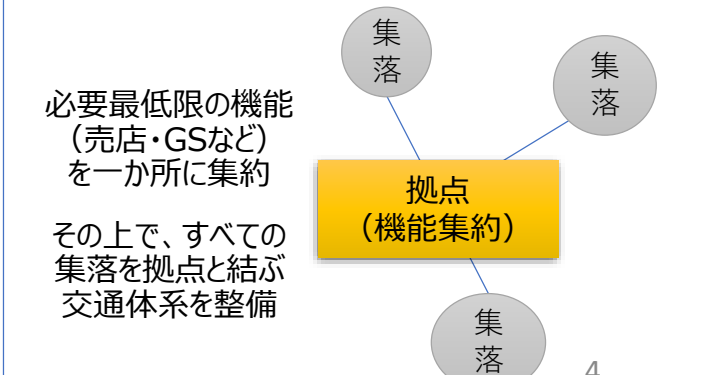
新しい発想を取り入れる仕組み



これらの仕組みを実現するため、小谷村らしい活動拠点（小谷版小さな拠点）をつくりましょう

小谷版小さな拠点 を知るために

まず最初に、類似する国の諸制度を理解しましょう

<p>名 称</p>	<p><国版> 地域包括ケアシステム</p>	<p><国版> 小さな拠点</p>
<p>ねらい／意図</p>	<p>医療・介護・福祉・行政の従事者・関係者（専門家）が、地域で暮らす“高齢者”を継ぎ目無く支える</p>	<p>村に必要な最低限の機能を集約（拠点化）し、各集落を公共交通で結ぶコンパクトシティの仕組み</p>
<p>サービスの対象 (対象分野)</p>	<p>主に高齢者 (特に医療・福祉対策)</p>	<p>すべての村民 (特に交通・買い物弱者対策)</p>
<p>Player</p>	<p>医療／福祉関係者／行政</p>	<p>商業／交通事業者／行政</p>
<p>制度のイメージ</p>	<p>高齢者 (地域の中で支援)</p>  <p>医療・福祉従事者が情報を共有し、高齢者が地域で暮らす体制を整備</p>	<p>必要最低限の機能（売店・GSなど）を一か所に集約</p> <p>その上で、すべての集落を拠点と結ぶ交通体系を整備</p> 

小谷版小さな拠点 とは何でしょうか？

村民同士や村外者との様々な交流を生み、みんなが安心して暮らし続けるための生活のより所なる機能や場所です。

小谷版小さな拠点は、「地域包括ケアシステム」と「小さな拠点」がもつ要素（関係者間の連携／機能の集約化）を土台にしつつ、**村で活動するさまざまな人や団体を人的・資金的に支える“旗振り役”の機能を付加した仕組みが集まる場所**です。

名称

小谷版
小さな拠点

ねらい／意図

住み慣れた集落で暮らし続けたい村民を、新たな工夫とアイデアで支援しようとするさまざまな取組を、人的・資金的に下支えする仕組み

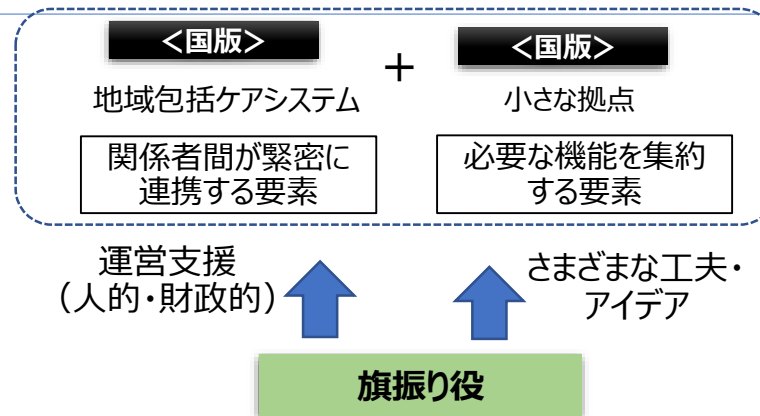
サービスの対象
(対象分野)

すべての村民
(村外で暮らす家族を含む)
(すべての課題)

Player

村で活動するすべての人／組織／行政

制度のイメージ



- ・国の2制度を融合したもの
- ・専門外のひとやさまざまな工夫・アイデアを積極的に活用
- ・旗振り役は、全体のコーディネートを担う

5 4 (ごし) ぷろ とは何でしょうか？

小谷版小さな拠点 と 5 4 (ごし) ぷろ は、意味合いがちょっとだけ違います

ごしぷろ は、小谷版小さな拠点を核に、ヒト・モノ・コトが活発に循環(コラボ)している“状態・さま”を指します。
生活支援をはじめとする様々な住民サービスを、関係者の連携や村民の自助・共助で行い、誰もが自分らしく生きがいを持って暮らし続けられる地域を創るための活動です。

(小谷版小さな拠点は“機能・取組のエンジン” ⇔ ごしぷろ は“活動の状態・さま”です。)

ごしぷろ とは …

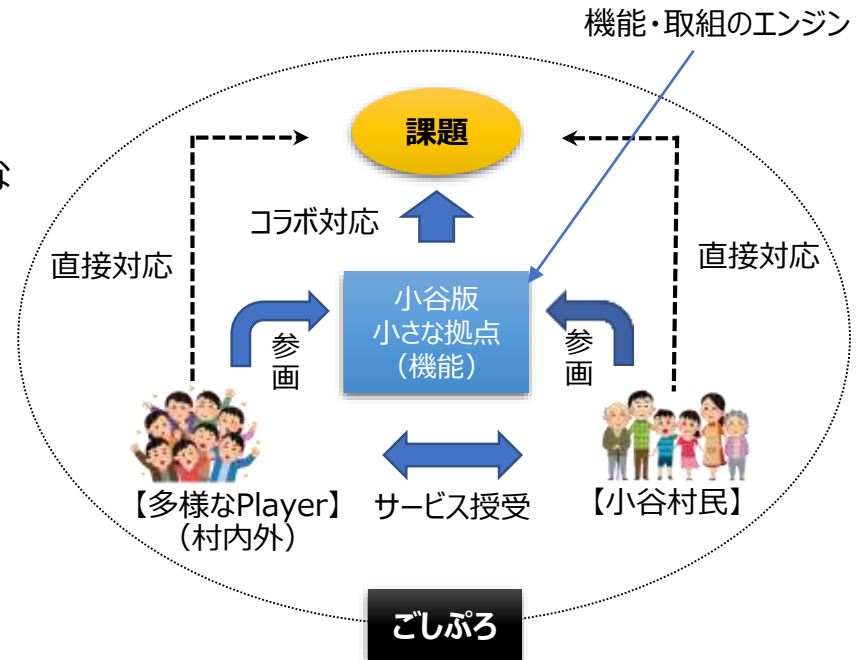
「小谷版小さな拠点」という機能・取組のエンジンをベースに、「福祉・介護・医療」、「若者支援」、「交通(移動)支援」ほか、さまざまな地域課題を解決するために、

- ヒト (NPO、地域おこし協力隊、地域おこし企業人、外部企業、専門家など)
- モノ (ICT技術、民間サービス、資金・補助金)
- コト (アイデア、工夫)

を積極的に取り込んで、

- 「異分野のplayer同士の連携」
- 「工夫・アイデアを取り入れた新たな取組」
- 「村民同士の支えあい」

が活発に行われている“状態・さま”、または、それらを引き起こす“意図的な活動”のすべてを指します。



この循環が、課題解決のタネになります

「小谷版小さな拠点」と54プロジェクト

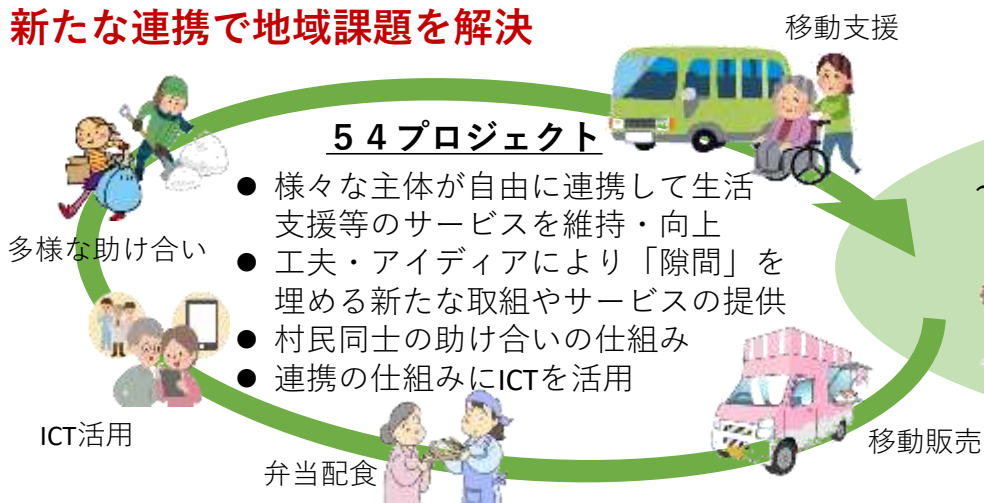


- 「54プロジェクト（ごしぷろ）」は、生活支援をはじめとする様々な住民サービスを、関係者の連携や村民の参加で行い、誰もが自分らしく生きがいを持って暮らし続けられる地域をつくるための活動。
- 「小谷版小さな拠点」は、村民同士や村外者との様々な交流を生み出し、みんなが安心して暮らし続けるための生活のより所となる機能が集まる場所の総称で、54プロの活動を支えます。

目指す村の姿

誰もが最後まで自分らしく住み慣れた場所で暮らし続けられる村

新たな連携で地域課題を解決



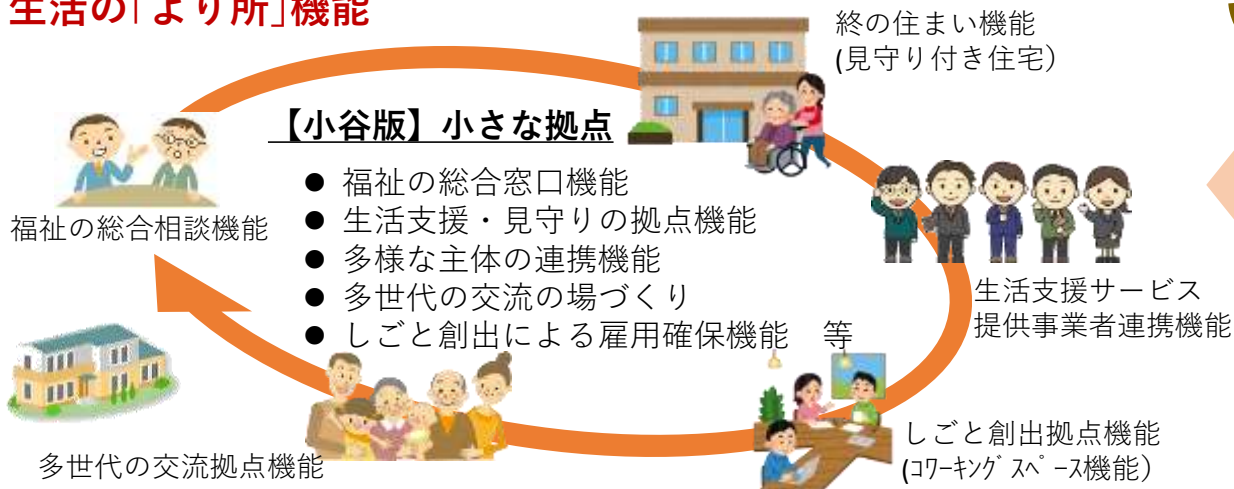
自分らしい暮らしの実現

～どんな世代も安心して自分らしい暮らしができる村～

- ◆ 安心して生きがいのある暮らし
- ◆ 交流のある暮らし
- ◆ 居場所がある暮らし
- ◆ 楽しみがある暮らし 等



生活の「より所」機能



54プロ（ごしぷろ）活動を支援

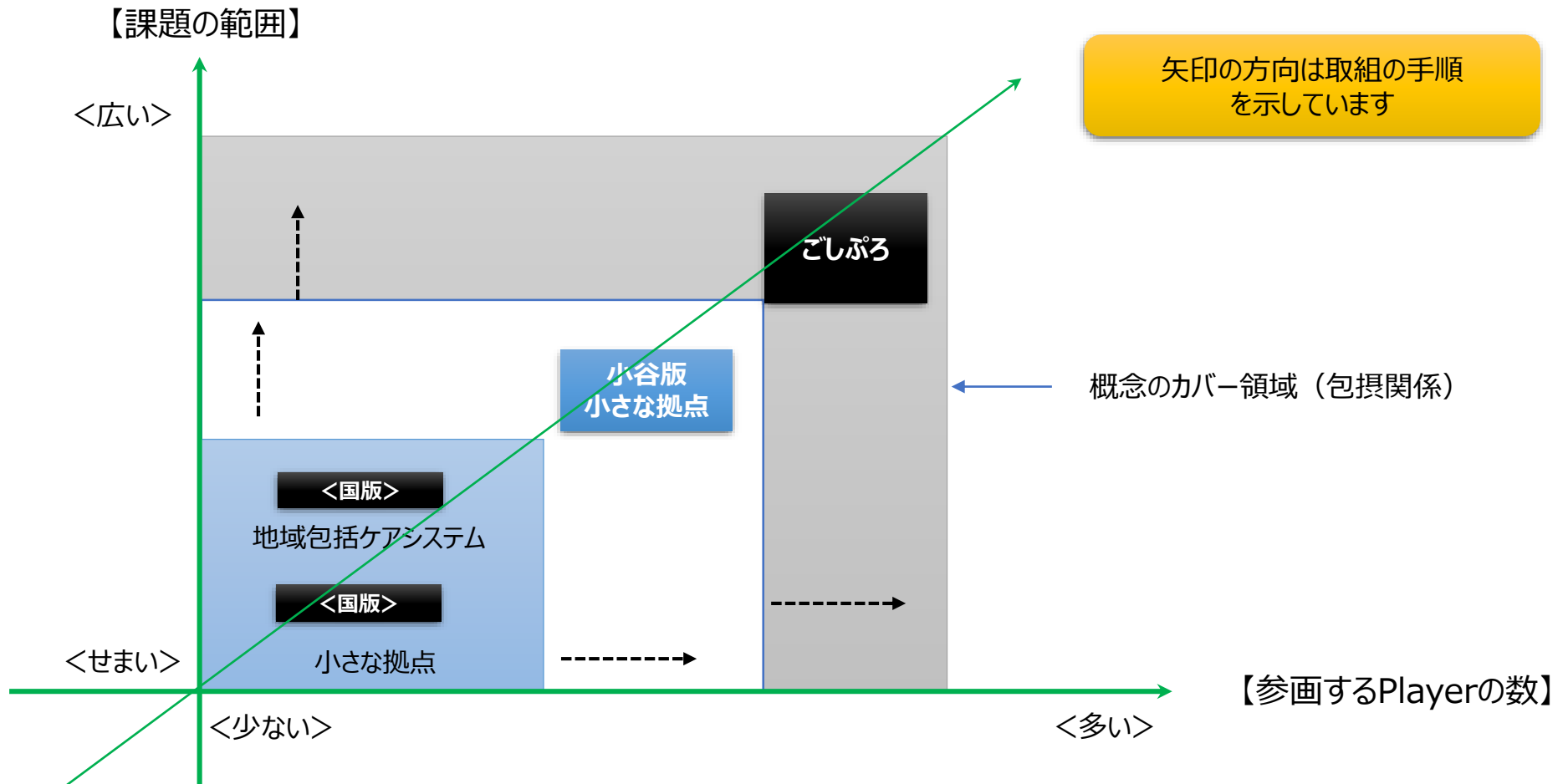
旗振り役

- 拠点（機能・場所）の運営**
【LM（ローカルマネジメント組織）】
- ◆ 拠点機能の総合調整
 - ◆ 54プロ活動の下支え

各制度の相関から見えてくること

5 4 (ごし) ぷろ は、各制度の要素の積み上げによってできる、地域活動の“新たなスタイル”です

5 4 (ごし) ぷろ は各制度の仕組み・機能を取り入れた発展的な概念です。
各制度の相関を見ることで、ごしぷろ 実現までの手順 (ステップ) が見えてきます。



5 4 (ごし) ぷろ 実現までのステップ

取組の手順 (ステップ)

課題解決に向けた取組を支える機能を実装していきましょう。
(各項目が前後/同時並行で進行することもあります)

1

〈国版〉包括ケアシステム
の要素を取り込む

「福祉・介護・医療・行政」の垣根を超えた機能連携を推進し、村民が必要とする支援を確実に提供できる体制を目指します。

2

〈国版〉小さな拠点
の要素を取り込む

村民の安全・安心に資する機能・サービスを拠点に集約するとともに、高齢者等の生活を支える移動手段を検討します。

3

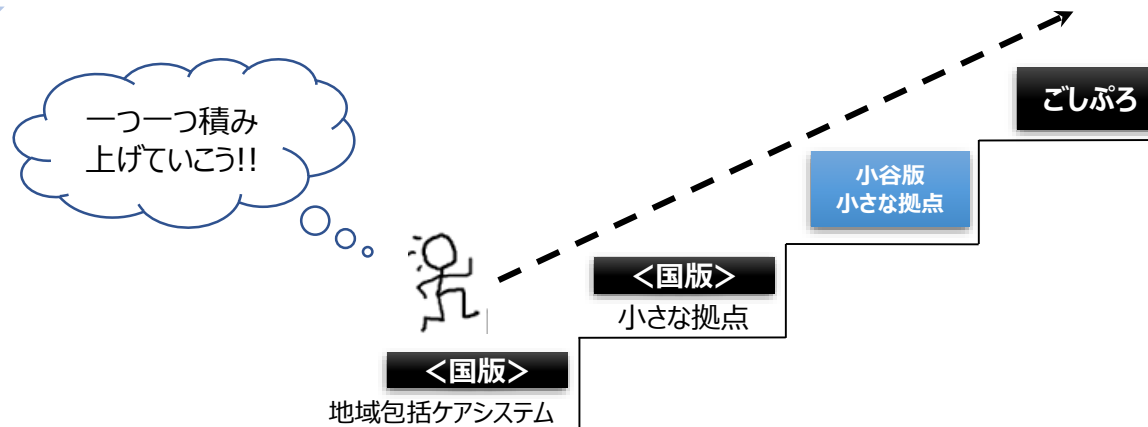
小谷版小さな拠点
を構築する

Playerの連携を促す旗振り役 (LM : Local Management) を設置します。
LMは、収益事業を有する自立した民間組織を目指します。

4

“5 4 (ごし) ぷろ” を形成する

発生した課題の解決に向けて、さまざまなPlayer・村民が参加し、協力しあいながら活発に活動する“状態・さま”を意図的に創造します。取組の形・コラボ方法に決まった形はありません。



ごしふる 実現までのステップ① 連携強化

1

〈国版〉包括ケアシステム
の要素を取り込む

関係者間の緊密な連携

「福祉・介護・医療・行政」の垣根を超えた機能連携を推進し、村民が必要とする支援を確実に提供できる体制を目指します。

➔ すべての取組の“土台”となるステップです。

取組アプローチ①

【関係者間の連携強化】

各団体が、専門の垣根を越え、村民支援のための連携した取組を展開できるようにします。

【①業務仕分け】

各団体が現在行っているサービスを洗い出し、見直すべき課題がないか検討します。

- ・提供体制に無理はないか？
- ・団体間で重複サービスはないか？
- ・各団体固有の強みは何か？

【②サービスの選択と集中】

①の検討結果を踏まえ、各団体のサービス内容を見直します。

- ・撤退すべきサービスはないか？
- ・現状を維持すべきサービスは何か？
- ・優先すべきサービスは何か？

【③連携ミーティング】

各団体のサービスを通じて得た情報や工夫・改善方を共有する恒常的な場を設定。

- ・相互協力すべき支援はないか？
- ・団体間で共有すべき情報はないか？
- ・サービスに工夫・改善余地はないか？

【④ICT技術の導入】

サービスの提供方法や情報共有にICTが活用できないか検討します。

- ・ICT化が有効なサービスはないか？
- ・高齢者目線のICTサービスとは？
- ・ICT化の費用対効果は？

取組アプローチ②

【保険外サービスの拡充・実践】

ニーズはあるが対応が不十分な保険外サービスを拡充します。該当するサービスがない場合は積極的に創造します。

【住まいへの対応】

- ・困ったときにだれでも一時利用できる集合住宅を整備します。
- ・短期／緊急／冬期等の入居ニーズに対応します。



集合住宅(新設)



トレーラーハウス型



戸建て型(空き家利用)

【食と生活に関する対応】

- ・高齢者への食事提供と買い物ニーズに対応します。
- ・弁当配食／移動販売サービスを拡充します。



弁当配食



移動販売

ごしふる 実現までのステップ② 機能集約

2

〈国版〉小さな拠点
の要素を取り込む

- ・村に必要な最低限の機能の集約
- ・公共交通体系の在り方検討
- ・集落をまとめるのではなく、活かす工夫

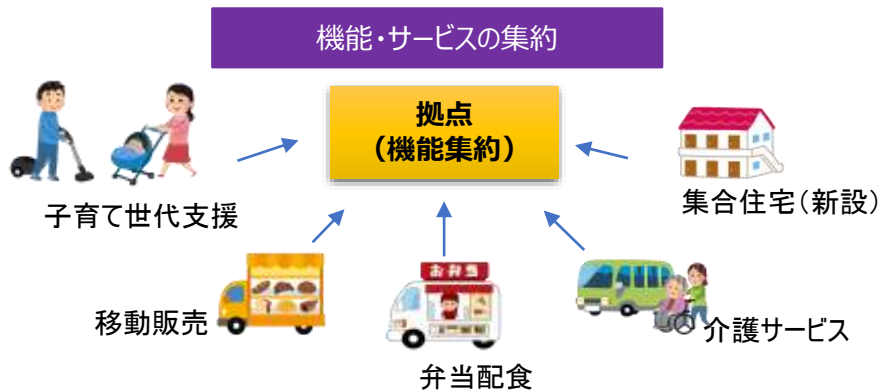
村民の安全・安心に資する機能・サービスを拠点に集約するとともに、高齢者等の生活を支える移動手段を検討します。

➡集落をなくすのではなく、活かす工夫をします。また、集約とは“知恵やアイデア、活動する人・団体の集約”を指します。

取組アプローチ①

【機能・サービスの集約(拠点化)】

ステップ①の機能・サービスを拠点に集約し、利用者の利便性を高めます。供給者（Player）側にとっても効率的な事業運営が期待できます。



注意!!) 村民の利便性を高め効果的なサービスを提供することが最大の目的です。そのため、ここでいう集約は、事務所・活動場所等の物理的な集約(ハード整備)を必ずしも意味しません。

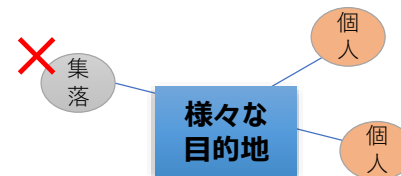
取組アプローチ②

【高齢者等の生活を支える移動手段の検討】

守備範囲（村との役割分担）を考えます。

村役場 (行政サービス)	幹線道路等の路線バス、村内循環（定時運行）など、基幹的な交通体系は村の所掌です（動脈・静脈）
小さな拠点 (player)	買い物弱者、高齢者の通院など、個別かつ一時的・突発的な移動ニーズが守備範囲となります（毛細血管）

※集落単位でなく、**個別の移動ニーズ**にアプローチした工夫・アイデアを検討します。



- デマンドタクシー？
- 有償旅客運送？
- 貨客混合輸送？
- 自家用車移動？
- 隣近所の助け合い？

ごしぷろ 実現までのステップ③ 旗振り役

3

小谷版小さな拠点を構築する

取組の核をつくる

Playerの連携を促す 旗振り役(LM : Local Management) を設置します。
➡ LMは、収益事業を有する民間主導の自立した運営組織を目指します。

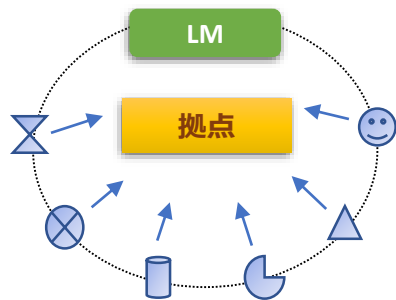
ポイント①

【LM : Local Managementの設置】

LMは、自由に活動する個々のPlayer同士をつなぎ、活動の幅を広げるお手伝いをします。
また、さまざまなアイデアを共有し、新たな事業創造の可能性を検討します。

取組の旗振り役

【Player間の連携をリード】



【個々のPlayerが自由に活動】

・拠点の維持、経営
・コアメンバー会議

LMの機能

イノベーションを生み出すエンジン



ポイント②

自立した運営基盤

LMは、独自財源を有する自立した民間組織を目指します。
収益やマンパワーがPlayer間で循環する仕組みを構築します。

財政的自立

Playerを支えるコスト

自立のための
独自収入



【収支バランスのとれた組織】

※どのように収益を上げるかをみんなで検討しましょう

※得られる収益や人手がPlayerの支援に回る仕組みができると、拠点の持続可能性が飛躍的に高まります

ごしぷろ 実現までの ステップ④ みんなが主役

4

“ごしぷろ”の形成

さまざまなヒトの自由な活動と協働のかたち

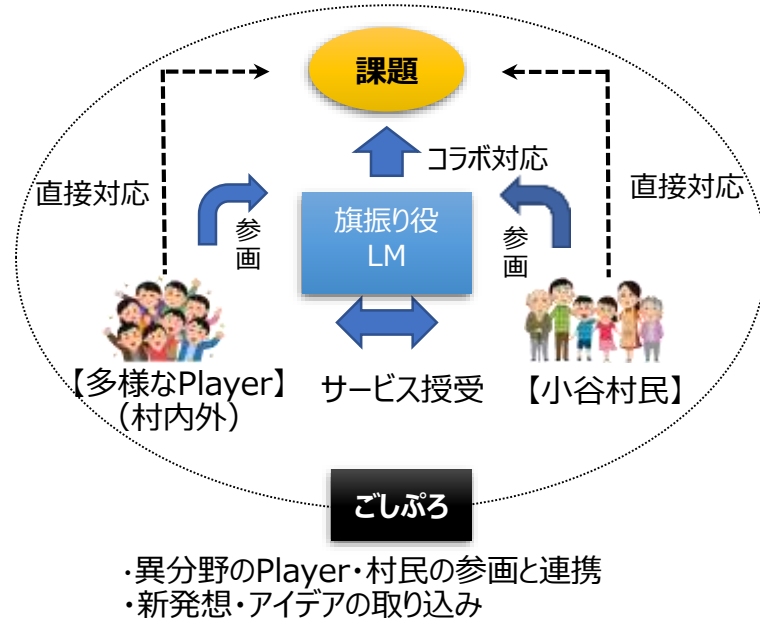
発生した課題の解決に向けて、さまざまなPlayer・村民が参加し、協力しあいながら活発に活動する“状態・さま”を意図的に創造します。➡ 取組の形・コラボ方法に決まった形はありません。

目指すかたち①

【みんなが課題解決の主役】

連携の形は自由、村をよくするための個々の取組が課題の解決につながります。

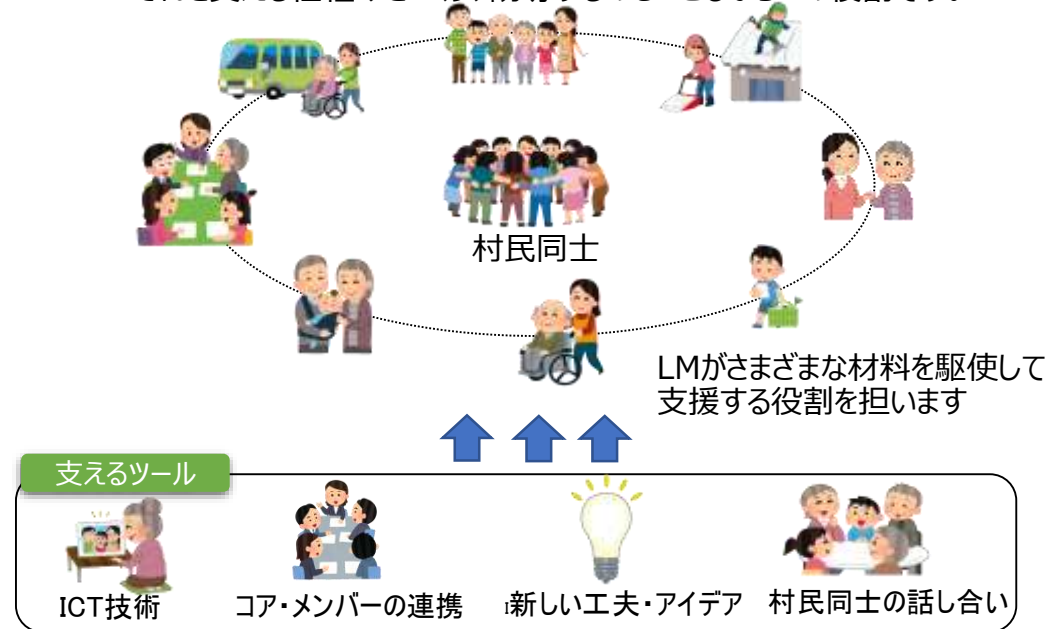
LMは、Playerと村民をつなぐ窓口となります。



目指すかたち②

【村民同士の助け合い】

究極のかたちは、村民(隣近所)同士の“自発的な助け合い”です。それを支える仕組みをつくり、誘導するのも“ごしぷろ”の役割です。



協力・コラボ (collaboration) することの意味

一つのきっかけ（各Playerの取組）が、別の取組につながっていきます

？
ごしぷろ

= ごしぷろ

ごしぷろ は・・・

Player同士の協力・コラボ（工夫・アイデア）関係が多方面につながり、別の効果を生み出していく“アメーバ”型展開を期待した活動です。



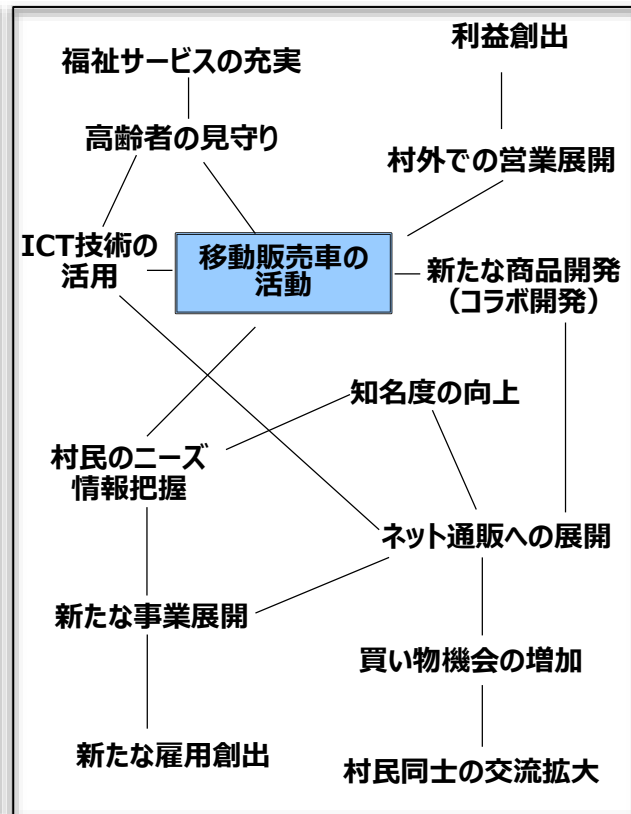
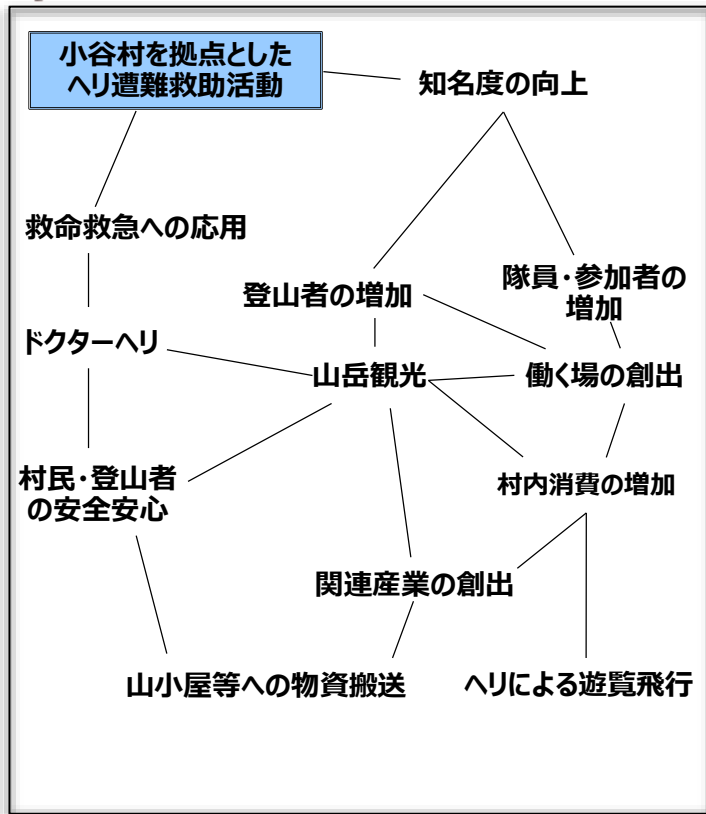
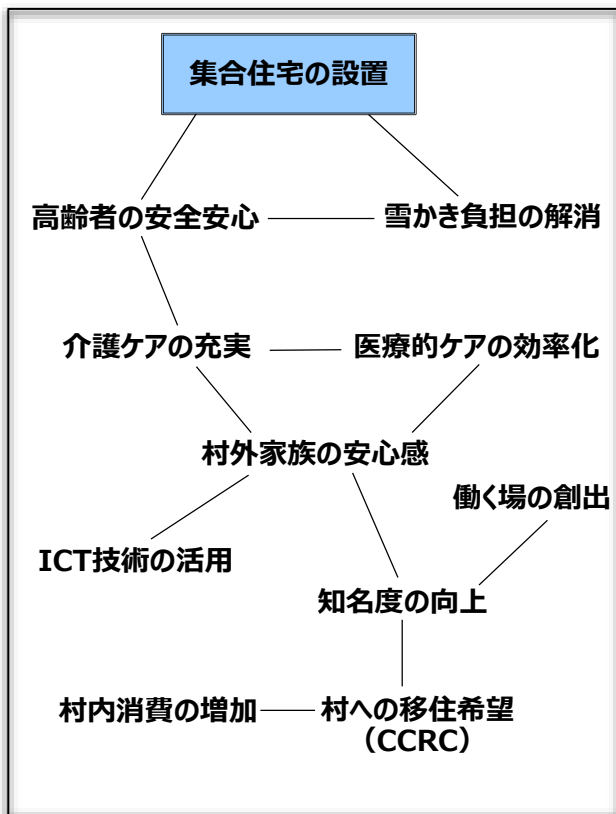
集合住宅(新設) (建物ができるかどうか?)



救助ヘリ (ヘリ救助拠点ができるかどうか?)



移動販売 (動き出すかどうか?)



この取り組みにあたって注意していること

そもそも、みんなが目指した村はどんな村だったか、思い出す・・・取り組みの原点を常に意識できないことを考えるよりも、小さくても”できること”はないか・・・小さくても1つずつ結果を出していく

